



昭和 27 年 7 月 講和記念平和博覧会で賑わう岩見沢駅前



- ①昭和 48 年 7 月 万字炭鉱従業員
- ②平成 4 年 4 月 春の交通安全ロードキャンペーン (栗沢駅前通り)
- ③平成 29 年 10 月 バス路線の再編

産炭地として知られた空知。その中でも岩見沢は、石炭輸送を担って延伸した鉄道の中継地として発展しました。昭和 40 年代になると炭鉱が閉山、交通手段はバスに転換し、国道や高速道路などが整備されて自家用車が普及すると交通事故も増え、交通安全の啓発活動が定期的に行われるようになりました。

鉄道に加え路線バスやタクシーなどの公共交通は、今後も市民生活や観光を支え、環境にも優しい移動手段として期待されています。

炭鉱・鉄道から自動車へ、スマートムーブを目指して

# 写真とともに 振り返る岩見沢

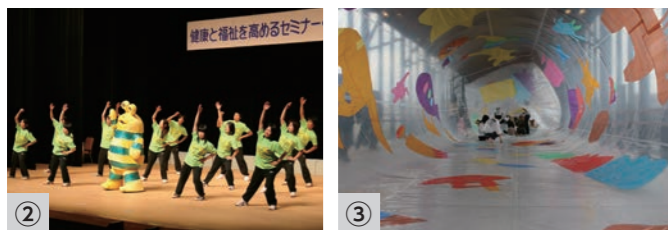
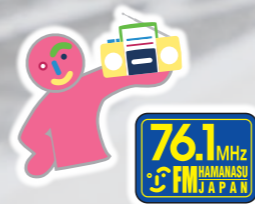
市は、開庁 140 年・市制施行 80 周年を記念し、市町村合併前からの岩見沢・北村・栗沢の出来事を 7 つのテーマに分け、写真で振り返るパネル展を開催しています。今月は、そのパネル展を基に、岩見沢のこれまでのあゆみを紹介します。

問合先 秘書課広報係 ☎ 35-4793

開庁 140 年・市制施行 80 周年記念  
写真パネル展

- 日程 10 月 9 日(祝)まで
- 時間 午前 9 時から午後 10 時
- 場所 まなみーる市民会館 (9 西 4)
- 問合先 庶務課文書法制係 ☎ 35-4815

市職員が出演して  
説明します  
10 月 13 日(金)  
午後 5 時 40 分



北海道教育大学岩見沢校は、度重なる存続の危機を乗り越え、今年で創立 100 周年を迎えました。岩見沢校では芸術・スポーツを専門分野とする学生が学び、音楽演奏や美術作品の制作、健康体操や子ども向けのスポーツ教室などを通して、子どもたちや市民と触れ合う機会をつくっているほか、市民の生きがいづくりなどまちづくりの課題にも挑戦しています。

地域とともに歩む学生の意欲的な活動は、まちを活気づけてくれています。

- ①昭和 53 年頃 教育大学岩見沢分校
- ②平成 20 年 11 月 健康と福祉を高めるセミナー (ひゃっぴい体操誕生)
- ③平成 21 年 5 月 i-box 開設記念・岩っ CHAO !



平成 21 年 10 月  
重唱コンサート (Tocchiamo!)

地域とともに歩む大学生



①



岩見沢はこれまで、いくつもの自然災害を乗り越えてきました。中でも 5 日間で 400 ミリを超える大雨となり、北村から栗沢にわたり大きな被害をもたらした昭和 56 年の集中豪雨や観測史上 1 位となった平成 23 年度の豪雪などを覚えていらっしゃる方も多いのではないのでしょうか。

私たちは、これまでに経験した災害を教訓に、定期的な防災訓練や河川清掃などを通して、頻発する自然災害に備えるとともに、地域で助け合う活動の大切さも忘れてはなりません。

- ①昭和 59 年 6 月 最上川河川清掃 (栗沢)
- ②平成 8 年 2 月 豪雪 (緑陵高校生のボランティア除雪)
- ③平成 18 年 8 月 防災訓練 (総合体育館)



昭和 56 年 8 月 洪水 (幌向市街・高野団地)



①

災害に強いまちは、きれいなまちから



①昭和52年11月 第2回栗沢中吹奏楽部定期演奏会(栗沢)  
②平成5年5月 新琴似と北村の子供会、田植えの体験



確かな学力と豊かな体験活動、  
様々な文化に触れる

農業が盛んな岩見沢と北村、そして炭鉱でも栄えた栗沢には、多くの小・中学校がありました。高度経済成長期の昭和30年代後半から炭鉱離職者や離農者が増え、児童生徒数が減少し、小・中学校の統廃合が進みました。統廃合の過程では、各学校の長所や地域の伝統、特色ある部活動などを受け継ぎながら、豊かな自然環境を活用したさまざまな体験学習にも取り組んでいます。

少子化社会を迎え、ライフスタイルの変化に対応するため、学校と放課後児童クラブを隣接させるなど、新たな環境整備も進んでいます。



①昭和36年 田植え(岩見沢)  
②昭和44年 索道客土(大願地区)  
③令和元年10月 ロボットトラクター走行デモ



食料生産の近代化と転作、地産地消と消費拡大、サステイナブルで強い生産形態を目指して

岩見沢の農業は、昭和40年代まで続けられた客土事業や品種改良、大型機械の導入など経営の近代化により発展してきました。石狩川水系の豊富な水を生かした広大な農地は、道内トップクラスの水稻栽培などによって食料供給地としての役割を担っています。

近年、農業従事者の高齢化と担い手不足が進んでいます。気象データを活用した農業気象システム、ICT技術を備えたトラクターの自動走行などの導入して作業の効率化と技術の伝承に挑戦し、持続可能な強い農業を目指しています。

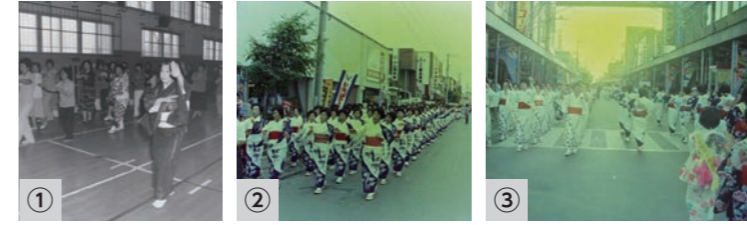
岩見沢、北村、栗沢の各地域とも昭和30年代から保健師などを中心に病気の予防に取り組んできました。平成27年4月から、北海道大学とともに健康をもっと身近に感じ、いつまでも元気に暮らせるまち「健康コミュニティ」をつくる取り組みを進めています。家族健康手帳アプリや健康ポイント事業などを通して病気の予防や生活習慣の改善に取り組み、平成28年6月に全国の自治体で初めて健康経営都市宣言が認定され、平成29年4月には市民の健康づくりの拠点としていわみざわ健康ひろばもオープンしました。

また、各地域では、昭和30年代から広く呼び掛け、運動会やスポーツ行事に取り組み、健康づくりとともに親睦を深めています。

①昭和51年9月 第1回老人オリンピック大会(栗沢)  
②昭和59年8月 第1回村民運動会(北村)  
③平成29年4月 いわみざわ健康ひろばオープン



健康が身近に、楽しく健康づくり、健康で活動的な暮らしを楽しむ



桂沢ダムの完成や産炭地振興策を契機に、多くの企業が進出し、炭鉱・鉄道に代わって地域経済の担い手になった事業者と地域が協力してさまざまな行事を生み出してきました。

岩見沢、北村、栗沢にはそれぞれの地域で受け継がれ、暮らしを豊かにする特色ある行事や祭りがあります。夏祭りの時期に始まった各地域の踊り、昭和58年に始まり、秋の風物詩となつたいわみざわ百餅祭りや豪雪期に開催されるドカ雪まつりは、市民や観光客を楽しませてくれます。

①昭和55年9月 北村音頭の練習  
②昭和57年8月 第6回農業祭(新栗沢音頭)  
③昭和58年8月 いわみざわ夏まつり(観光音頭踊りパレード)  
④平成8年2月 第3回馬そりと温泉ツアー(北村)



地元を誇りを、誰もが無理のない仕事と暮らしを楽しむ

紹介したのはパネルの一部です。ぜひパネル展にもお越しください